

第41回電気通信普及財団賞

テレコム人文学・社会科学部門 総評

第41回テレコム人文学・社会科学賞、テレコム人文学・社会科学学生賞に多数のご応募をいただきありがとうございます。今回の応募件数は前回と比べて微増しており、テレコム人文学・社会科学賞に34件（前回26件）の応募がありました。そのうち19件（同12件）が書籍、また8件（同10件）が英文論文でした。同学生賞への応募は5件（同8件）、そのうち英文論文は1件（同3件）でした。

今回の全体の総評および最終結果は、以下のとおりです。

■テレコム人文学・社会科学賞

今回テレコム人文学・社会科学賞の応募34件のうち、19件は書籍、学会誌・雑誌等に掲載された論文の応募は15件で、いずれも読みごたえのある作品でした。今回の応募作品を分野別に見ると、社会が20件（前回15件）と最も多いものの、その他に経済、経営、政策、法律など多岐にわたっています。また研究の対象をみると、今回はプラットフォームやAIの活用にかかわる作品が多くみられ、社会、経済、法律や教育など多くの分野でこれらに対する関心が高まっていることが読み取れました。また、テレワーク、遠隔医療、犯罪捜査など、情報技術を活用した社会における諸活動について、そのメリットやデメリットを明らかにし、分析を加えた作品もありました。多数の応募があったため、質と量の両面の総合評価の結果として、労作ながら最終選考の対象にならなかった作品もありました。

テレコム人文学・社会科学賞の選定にあたっては、予備審査を経た9作品について厳正な最終選考を行った結果、入賞3件（前回1件）、奨励賞2件（同2件）を決定しました。受賞した作品のうち4件が書籍、1件が論文であり、いずれも意欲的な優れた作品として審査員から高く評価されました。

入賞作品のうち、宇田川敦史氏の『Google SEOのメディア論：検索エンジン・アルゴリズムの変容を追う』は、グーグルのアルゴリズムがどのようなアクターの、どのような相互作用によって構築され、変容してきたのかを検証し、学際的に分析した労作です。

小西葉子氏の『現代の諜報・捜査と憲法：自由と安全の日独比較研究』は、国家による情報通信技術を駆使した秘密裏の諜報・捜査活動に着目し、日独比較を通じて、その統制システムを分析し、憲法上の権利を保障するための実効的な方法を模索した優れた研究書です。

安達貴教氏の『21世紀の市場と競争：デジタル経済・プラットフォーム・不完全競争』は、プラットフォームの不完全競争の経済理論モデルの研究をまとめたものですが、経済学の知識が

ない読者も含めて、多くの人に21世紀の市場と競争について考えてほしいという著者の意図が
体現された良書です。

奨励賞2作品のうち村山陽氏、山崎幸子氏、長谷部雅美氏、小林江里香氏の「Does online
communication reduce loneliness among middle-aged and older adults living alone?: Focusing
on intergenerational communication」は独居の中老年・高齢者を対象に、オンライン・コミュ
ニケーションと孤独感および精神的健康との関連を、交流相手の属性別に精緻に検討した研究
論文です。

同じく奨励賞の松尾剛行氏の『サイバネティック・アバターの法律問題』は、サイバネテッ
ク・アバター (CA) に関連する最新の法的課題について、弁護士としての実務経験も踏まえて
幅広く分析を加えた良書です。

■テレコム人文学・社会科学学生賞

テレコム人文学・社会科学学生賞は、予備審査を経た作品について厳正な最終選考の結果、1
件を入賞（前回2件）、2件を奨励賞（同2件）としました。

入賞作品の大内孝子氏の「IEEE 802.3規格の形成過程」は、未発表の修士論文です。IEEE 802
委員会におけるEthernet (802.3) 規格成立の過程を、一次資料と関連文書の精査に基づいて丹
念に再構成した完成度の高い作品です。

奨励賞の光吉佑莉加氏の「ICT産業における国際分業と付加価値の分配：国際産業連関表を用
いた多国間の相互依存関係に関する実証分析」も、未発表の修士論文です。OECDが公表してい
る国際産業連関（2023年版）を使って、国際分業が進展しているICT産業の現状等を丁寧に分析
した点が評価されました。

同じく奨励賞の松浦正典氏、Abu Hayat Md. Saiful Islam氏、Salauddin Tauseef氏、Shu Tian
氏の「Mobile phones, off-farm income and employment of rural women: Evidence from
Bangladesh」は、バングラデシュ農村部を対象に、女性の携帯電話保有が就業形態や所得に与え
る影響を家計パネルデータで実証分析した研究論文です。携帯電話保有を意思決定主体に着目
して定義し、内生性に配慮した計量分析を行っている点が評価されました。

学生賞を受賞された方々の一層の研鑽を希望します。

なお、学生賞は、修士論文や卒業論文のように未発表の論文でも応募することができます。大
学院生だけではなく、学部生による情報通信に関わるさまざまな分野についての優れた作品の
積極的な応募を期待します。

本財団では、これからも各種学会への働きかけ、プレスリリース等、応募勧奨を行っていく予
定です。人文学・社会科学の分野から積極的に応募してくださいませよう願いたします。

■テレコム人文学・社会科学賞

◆発表形態（カッコ内は昨年度、以下、同）

著書等	学会誌、雑誌等
19点（12点）	15点（14点）
55.9%（46.2%）	44.1%（53.8%）

◆著者の所属

大学	一般企業	その他
25点（21点）	5点（2点）	4点（1点）
73.5（80.8%）	14.7（7.7%）	11.8%（3.8%）

◆言語

和文	英文
26点（16点）	8点（10点）
76.5%（61.5%）	23.5%（38.5%）

◆分野別

社会	経済	経営	政策	法律
20点（15点）	2点（2点）	4点（4点）	3点（2点）	5点（3点）
55.8%（57.7%）	5.9%（7.7%）	11.8%（15.4%）	8.8点（7.7%）	14.7%（11.5%）

<テレコム人文学・社会科学学生賞>

◆発表形態 カッコ内は昨年度データ（以下、同）

学会誌、雑誌等	書き下ろし（学位論文を含む）
2点（5点）	3点（3点）
40%（62.5%）	60%（37.5%）

◆著者の所属

大学院生（修士課程）	大学院生（博士課程）
2点（2点）	3点（5点）
40%（25%）	60%（62.5%）

昨年度は、学部学生が1点（12.5%）

◆言語

和文	英文
4点（5点）	1点（3点）
80%（62.5%）	20%（37.5%）



◆分野別

社会	経済	法律
2点 (4点)	2点 (2点)	1点 (1点)
40% (50%)	40% (25%)	20% (12.5%)

昨年度は、経営が1点 (12.5%)